令和7年11月18日

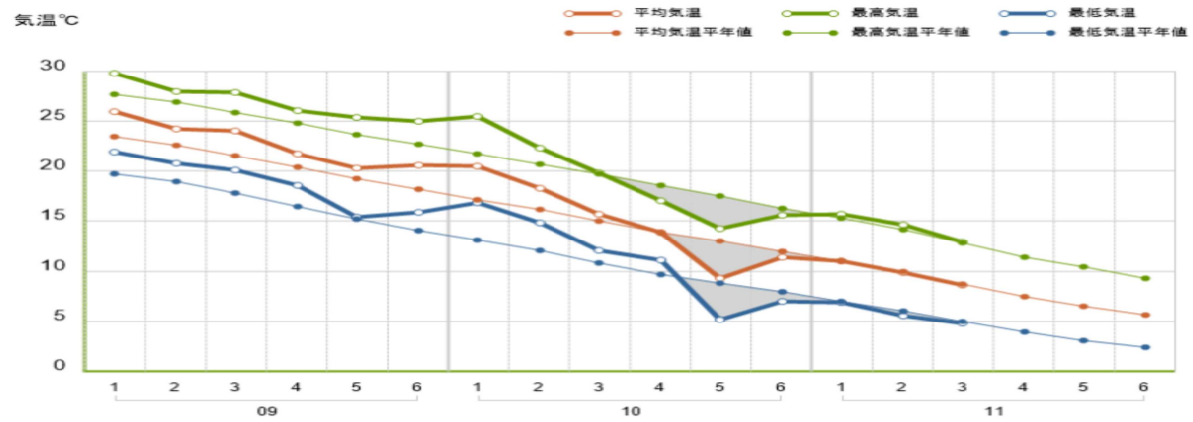
小麦情報 No.1（R8産）

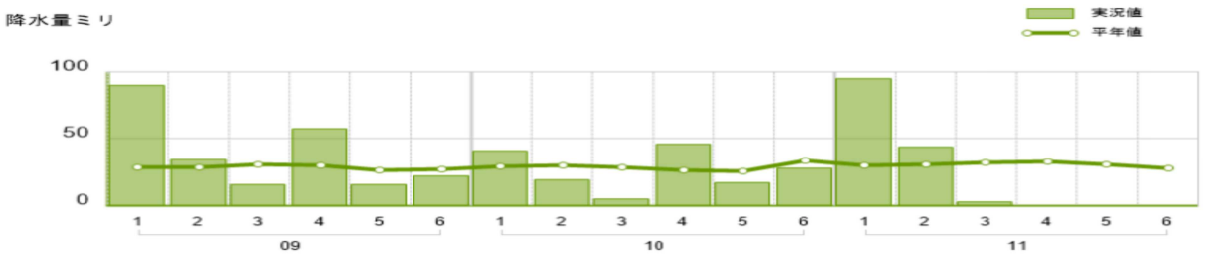
秋田地域振興局 農林部 農業振興普及課
Tel. 018－860－3410
Fax. 018－860－3834

排水・鳥害対策の徹底で越冬前の生育確保を！

1 気象経過（R7. 9月～11月）

アメダス大潟





〈概況〉

９月下旬～10月上旬の断続的な降雨により播種作業が遅れたため、生育はやや遅れています。

仙台管区気象台から11月13日に発表された１ヶ月予報によると、向こう１ヶ月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込みです。

また、気象庁から９月22日に発表された寒候期予報では12月～２月の降水量・降雪量は平年並の見込みのため、適切な排水対策や雪腐病対策をしましょう。

２ R8年産小麦の生育状況（R7年11月12日現在）

表１　11月12日の生育調査結果（大潟村定点ほ場4地点、品種：銀河のちから）

	草丈(cm)	茎数(本/m²)	葉数(葉)	株数(株/m²)
令和８年産	22.6	738	5.8	218
平年値	19.8	822	6.3	237
平年比（%）・差(±)	114%	90%	-0.5	92%

※株数は10月27日調査結果

11月12日の調査では、銀河のちからの草丈は22.6cm（平年比：114%）、茎数は738本/㎡（同比：90%）、葉数は5.8葉（同差：-0.5葉）でした。播種作業の遅れにより生育が遅れているほか、出芽後の低温寡照によって、草丈は高く、茎数が少なくなっています。越冬前に有効茎がほとんど決まるため、湿害や出芽不良の影響で茎数が少なくなっているほ場では積雪前に追肥を行い、有効茎を確保しましょう。

３ 排水対策

排水不良は湿害による生育量の低下や、病害の発生を助長します。積雪前に、ほ場に明きょを設置し、降雨後や融雪直後の排水に努めてください。既に明きょを施工しているほ場では、排水路につながっているか、停滞水がないか、溝が詰まっていないかを再確認しましょう。

４ 雪腐病について

９月25日に発表された「令和７年度 農作物病害虫発生予察情報 発生予報 第６号(10月予報)」によると県中央部のおける雪腐病の感染量は平年並と予想されます。雪腐病は根雪期間が100日を超えると被害が多くなるほか、早播や窒素肥料の多用、リン酸肥料の不足の時に発生が多くなります。雪腐小粒菌核病は排水不良な粘質土壌と砂質土壌に、紅色雪腐病は排水良好な黒ボク土壌に多く見られます。水田転作での栽培においては、排水対策を十分に実施する必要があります。今年の春季に発生が多かったほ場では表２を参考に防除してください。

表２　雪腐病の防除薬剤

	薬剤名	希釈倍数	散布液量	散布時期
紅色雪腐病	トップジンM水和剤	2000～2500倍	100L～150L/10a	根雪直前に１回散布する。散布後、根雪までの期間が長かったり、多量の降雨があった場合には再散布を行う。
	フロンサイドＳＣ	1000倍		
雪腐小粒菌核病	シルバキュアフロアブル※	2000倍		
	バシタック水和剤75	750～1500倍		
	フロンサイドＳＣ	1000倍		
	モンカット水和剤	400倍		

※シルバキュアフロアブルの根雪前の使用回数は１回である。

５ 鳥害対策について

例年、融雪後（２月下旬～３月中旬）に、ガン（渡り鳥）等の群れが飛来し、小麦を食害します。爆音機やテグス、防鳥テープ等をほ場に設置し、鳥類による被害を軽減しましょう。爆音機は電池やガスの残量、ノズルのつまり等を確認してから設置してください。